



# 『書写山』をたずねて

## —— 史跡円教寺境内 ——

**性空上人** えんぎょうじ 円教寺を開いた性空上人は、京都の貴族・橘善根の子で延喜10年(910)に生まれた。10歳の頃から法華経を読み、出家の志が強かったが、その念願が叶えられたのは36歳に達してからであった。その間怠ることはなかったが、自分の出家が遅れた分だけ烈しく修業にはげんだ。まず九州の霧島山、ついで背振山に一人籠り、法華経読誦の行をつんだ。39歳の時には、法華経8巻28品を暗誦したという。のち20年を経て、真実得道の地を求めて九州を離れ旅に出、山陽道を東上し、まれにみる靈気を感じて書写山に入山した。入山の途中、白髪ましろの仙人が現われて、「この山を書写という。山に登る者は菩提心をおこし、稀にも山に住む者は六根を浄む」と告げる。そして山上に三つの吉所を示した。第一は現在の大講堂の地、第二は今の摩尼殿の地、第三は准胝峰(白山)の地である。この老人は文殊菩薩の化身であるとされている。上人は、現在金剛堂のあるあたりに草庵を結んだ。98歳の時、弥勒寺で入滅するまで一日も休むことなく修業に励んだ。修業に対するきびしさと同様、庶民救済にも烈しく情熱をそそいだ。「上求菩提、下化衆生」上人の生涯は菩薩行そのものであり、大乘菩薩僧の名に恥じない立派な生涯であった。天台宗の三大道場の一つ、西の比叡と呼ばれ修業の山という性格とともに、民衆の悩みに積極的に向っていく山としての性格を持っていて、上人の志が今も生きていることが感じられ、その二つの性格が1000年の歴史をささえてきたと考えられる。

(昭和60年は「書写山」という山号、「円教寺」という寺号を花山法皇より賜って1000年目にあたる。)



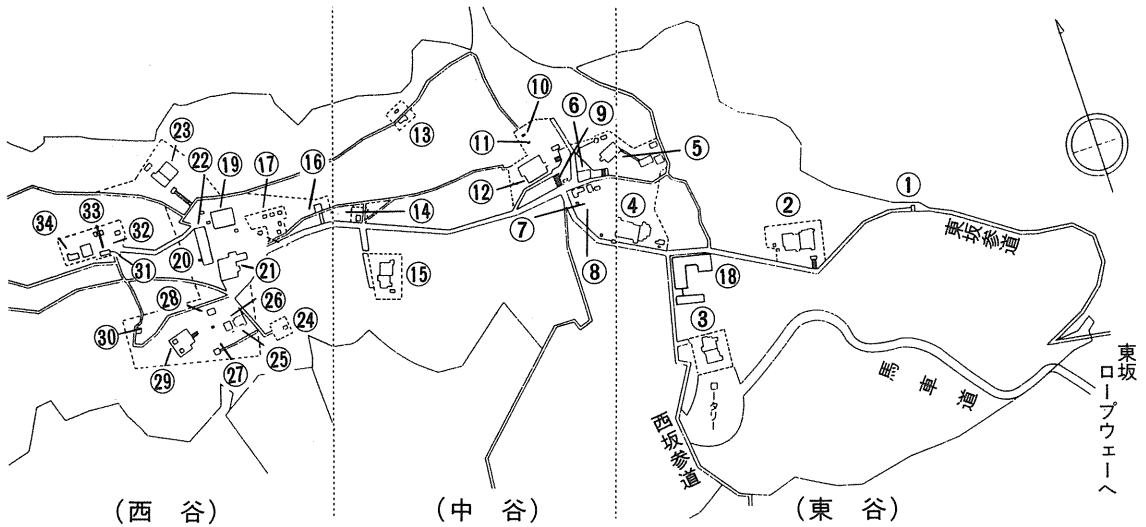
西坂本にある日吉神社

**西の比叡山** 円教寺は何においても比叡山を手本としてきた歴史がある。坂本は日吉神社、八王子神社があり規模は小さいが山上も東谷、中谷、西谷と三所に分かれている。東谷には、山門から、寿量院・十妙院・妙光院といった塔頭が現存し、中谷を代表するものは、摩尼殿である。そして大講堂・常行堂・食堂を中心に西谷が広がる。東と西は先に述べた円教寺の二つの性格を顕著に示すものである。西国二十七番の如意輪観音を安置する摩尼殿は、巡礼をはじめ一般民衆に大きくひらかれた道場であり、西谷は三つの堂を中心にして

僧侶を養成する道場が全て整っている所で、天台三大道場の一つといわれる円教寺の顔である。

**書写千軒** 中谷・西谷には大きな伽藍を中心に現在30数棟の建物がある。山上にこれだけの建物が何百年も経て現存するのにあらためて驚かされる。往時は書写千軒といって強大な勢力を持ち、山のいたる所に塔頭などがあつた。千軒というのは少し大袈裟だが、文書を見ると300程は確認できるといわれる。**守護使不入の石標**(写真4ページ) この碑は現在、東坂の如意輪寺(通称女人堂)の境内に立てられているが、もとは夢前川の東岸にあつたもの。これは円教寺の境内に不浄の役人の立ち入りを禁じたもので、円教寺の当時の勢力の大きさがしのばれる。室町時代のもの。

円教寺境内諸堂配置図



番号	名	稱	備考
34	開山堂		県指定重文
33	護法堂		重要文化財
32	不動堂		
31	護法堂拜殿		県指定重文
30	金剛堂		重要文化財
29	榊原家廟		
28	鐘樓		重要文化財
27	薬師堂(根本中堂)		県指定重文
26	法華堂		
25	十地院	塔頭	
24	松平家廟		
23	仙岳院	塔頭	
22	辨慶鏡井戸		
21	常行堂		重要文化財
20	食堂		重要文化財
19	大講堂		重要文化財
18	円教寺会館		
17	本多家廟		県指定重文
16	杣堂跡大仏		
15	瑞光院	塔頭	
14	大黒堂		
13	十一面堂(白山権現)		国登録文化財
12	摩尼殿		
11	稻荷社		
10	天神社		
9	三十三所堂		
8	護法石		
7	茶屋		
6	放生池		
5	本坊及び寺務所		
4	十妙院	〃	県指定重文
3	妙光院	〃	
2	壽量院	塔頭	重要文化財
1	仁王門		県指定重文

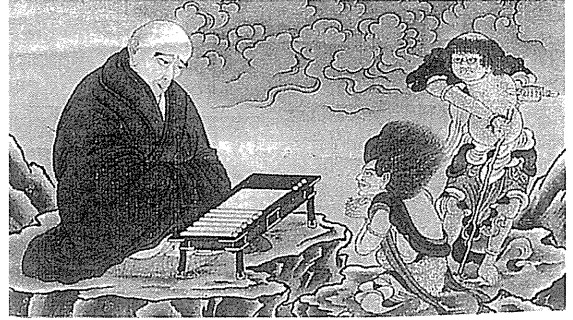


和泉式部の歌塚  
天福元年(1233)のもの

**和泉式部の歌塚** 書写山は、応永5年(1398)女人登山の禁止をはじめて以来、明治になるまでかたく女人禁制を守ってきた。その間女性は、如意輪寺(女人堂)へ参詣し経を納めることで円教寺の参詣に代えていた。性空上人の時代は特に女性の登山を禁じたわけではない。和泉式部はそのころに山に登り、上人の面会を得た一人である。主人の上東門院彰子の供として書写山に上人を訪ねたが、一行が来るのを知った上人は居留守を使い弟子にまかせて姿をかくした。都から訪ねて来たのに上人の不在を嘆き悲しむ主人を哀れみ、式部は「暗きより暗き道にぞ入りぬべき 遙かに照らせ 山の端の月」と詠んで上人に送った。この歌を見た上人は、これが法華經の文章をもとにして作られていることを知り、弟子に返歌「日は入りて月まだ出でぬたそがれに掲げて照らす 法の<sup>のり</sup>灯<sup>ともしび</sup>」をもたせて、すでに下山している一行を呼びもどした。一行は山にもどり、仏法の話を上人から聴聞した。開山堂北側に式部の歌塚がある。鎌倉時代のはじめのもので「天福元年十月二十六日」と刻まれている。



護法堂(右)、中央は開山堂、左は護法堂拝殿



性空上人と二童子



石造笠塔姿

**砥石坂** 東坂9丁目あたりの石坂をいう。その昔弁慶が長刀をといだので砥石坂と呼ばれるようになったと伝える。

**仁王門** 山麓より十八丁の地。現在のものは元和年中(1615~24)の再建、県指定重要文化財。安置する仁王像は作者不詳だが古くから名作といわれている。明治初年神戸在住の外人より度々譲渡を申し出られたが寺宝として拒絶したという。

**寿量院** 現在ある塔頭六院のうち、唯一の国指定重要文化財である。もと中院坊と称し承安4年(1174)後白河法皇7日間御参籠の時の御休み所となった。昭和42年解体修理された。庭は十三仏来迎の石庭がある。一般拝観も出来る。

**熊野社権現坂** 十妙院西より摩尼殿に進む坂を権現坂という。昔西坂本に法一

房という老尼があり、そこに泊った旅僧が一夜の札に権現像を尼に托し、尼はそれを寄進し、元徳2年(1330)如意坊能全が祀ったという小さい祠がある。坂の途中にある石造笠塔姿は、

県指定重要文化財、延慶4年(1311)のもの。**護法石** 権現坂を下った所に竹垣で囲った二個の石がある。昔、神童がこの石上に立ち寺門を守護したとの伝説がある。別名、弁慶のお手玉石とも言われる。

**湯屋橋** もとここに浴室があったとか、湯茶の接待をしたので名づけられた石の橋である。寄



護法石

進者は姫路藩主本多忠政でもと擬宝珠に名が刻まれていた。昭和19年戦争のため供出され現在のものは山麓の六角住長谷川氏寄贈のもので、擬宝珠に兩名の名が入っている。

**摩尼殿** 本尊は如意輪観音で西国第二十七番の観音様である。建物は何度も火災に会い、今の建物は昭和のもの。正面の石段は天文17年(1548)の造営にかかるもので、年号が刻まれている。

**白山峯** 海拔368m当山最高の地で、北は中国山脈を望める所である。ここは山上第3の霊地で、もと素盞鳴尊を祀り白山権現と称したが、正しくは本地である十一面観音を祀る十一面堂である。性空上人はここで六根清浄位を得られた。

**袖堂** 上人摩尼殿建立に先立ち石造如意輪観音を祀り袖始めされた事より袖堂と称する。現在のものは昭和53年再建したもの。

**大仏** もと宝蔵跡に祀られていたものを真言堂跡地に迎えて祀っている。青銅露座の毘盧遮那仏である。



白山権現（十一面堂）

**不動堂** 食堂裏を少し下ると右手石垣の上にある。昭和42年の台風大雨の山津波で全壊。昭和51年再建された。もと大経所の朽廃が甚しいので、姫路城主松平直矩が修理して、大経所をここに合祀した。もと金山唯一の丹塗りの堂で俗に赤堂と呼ばれていた。現在のものは生地のままである。

**護法堂** 向って右を乙天堂・左を若天堂と称し同じ形の春日造かすがづくりひわ 檜皮葺である。上人につかえた乙天童子・若天童子（実は不動尊と毘沙門天の化身）を上人没後守護神として祀る。神仏習合の事実を物語るもの。

**護法堂拝殿** 別名「弁慶の学問所」とも呼ばれ彼の机もここに収められていたが、今は食堂二階の宝物館にある。

**開山堂** 奥之院ともいう。性空上人の廟所である。等身大坐像の木像体内に御真骨を取めている。堂軒下隅木の上に左甚五郎作と伝える力士像がある。俗に甚五郎のサルと呼ばれ一匹が逃げたとの話で興味をもたれている。

**行者堂** 弁天堂・開山堂より8丁西北に進むと行者堂がある。当山最奥の飛地境内で、役行者を祀る。最近まではお籠りや断食等に入る行者もあったが、今はお参りするものも少ない。堂は元徳3年

(1331) 如意坊の創建にかかり、天正18年(1590)再興したものといわれる。その途中、六角道に分かれる。六角道を少し行くと夜なき地藏（眠り地藏）と呼ばれている磨崖仏がある。

**金剛堂** 上人が金剛薩埵さつたに会い、金剛界・胎藏界いんみょうの印明を授った地に堂を建て隣の普賢院に常住し持仏堂とされた。天井並に後壁に絵があり、特に天井の天女の姿は足のある天女として珍しがられている。普賢院跡地の広場は山上唯一の瀬戸内海の見える所で、快晴の日には東の淡路島より、四国・家島群島・小豆島が眺められる。

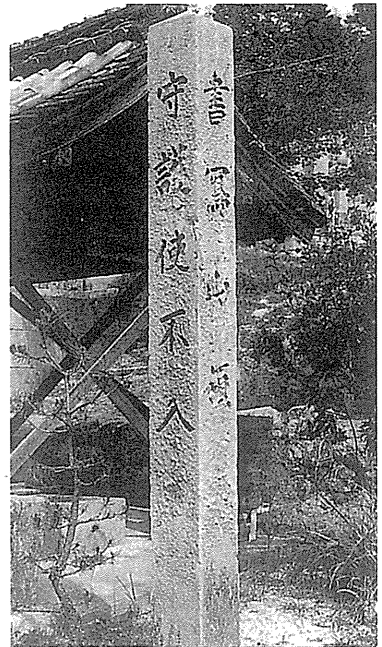
**一本杉跡地** 書写の一本杉として船乗りの目じるしにされたという。今は枯れて二代目が目通り6~7寸に成長している。

**鐘楼** 毎年12月31日の除夜の鐘をつくとき、麓よりの登山者でにぎわっている。

**み** 三つの堂 大講堂・常行堂・食堂を三つの堂と呼ぶ。三棟とも国指定重要文化財。大講堂の右手に本多家廟がある。

**本多家廟** 元和3年(1617)大坂の陣の功により伊勢国桑名10万石より姫路15万石に封ぜられた姫路藩主、本多家の墓所である。忠勝・忠政・政朝・政長・忠国は霊屋に祀られ、千姫の婿忠刻とその子幸千代、又忠刻に殉死した宮本三木之助・宮田角兵衛・三木之助に殉死した岩原牛之助の墓もある。

**大講堂扁額** 7尺×6尺(約2.1m×約1.8m)朝鮮より来朝の西川の筆と伝えられる。寛和2年(986)7月23日花山法皇行幸の時、書写山円教寺の山号寺号をいただいた。



守護使不入の石標  
東坂 如意輪寺境内